

日本語が好きだから



岡山赤十字看護専門学校

患者さんとのコミュニケーションを大切にできる人の育成を

■ 氏平副学校長に聞く

岡山赤十字看護専門学校では、赤十字の理念である人道を基調とし、豊かな人間性を育み、保健・医療・福祉の分野をはじめ、災害救護の現場で活躍できる基礎的能力を持った看護実践者を育成されていますが、毎年、日本語検定を受検していただいております。日本語検定を受検する目的について、氏平美智子副学校長に伺いました。



本校は、3年課程の看護師養成学校です。看護師になるために、実習はあらゆる世代の患者さんを受け持ち、病院・施設や在宅と様々な場所でカリキュラムの3分の1程度の時間行っています。その実習で学生が不安に思うことの一つは、「患者さんとコミュニケーションがとれるだろうか」ということです。実際患者さんとどれだけ話すことができ、看護に必要な情報を得られるかということは、看護の知識や技術を身につけることや誠実であることと同じように重要なことです。

ところが、英語は勉強するものと認識していても、日本語に関しては勉強するという意識はまずもっていません。そのため入学前から日本語検定の受検と新聞や本を読み活字に親しむよう伝えています。入学後は、日本語検定の過去問題集で受検のための勉強とその結果から自分の日本語表現の現状を認識し、自分が発する日本語に意識が向くことをねらいに1年生全員が挑戦しています。いろいろな方とのコミュニケーションがしっかりとれ看護に活かされることを願っています。

